

大野本笛鼓伝書

URL	http://hdl.handle.net/10114/4938
-----	---

大聖寺藏書

卷一

手後ハニテ淡ニツクニ手後ニツクニツ
ていはし時ありしに梅も也と云ふ。梅
やうなり

一 せいふやうに梅子と云ふは打たれず也
も梅子と云ふは梅子なり

一 梅子と云ふ梅子と云ふは梅子のせい
しうなり梅子なり

一 梅子と云ふ梅子の事

一 梅子の事と云ふ梅子の事

一 梅子の事と云ふ梅子の事

一 梅子の事と云ふ梅子の事

一 梅子の事と云ふ梅子の事

一 梅子の事と云ふ梅子の事

一 梅子の事と云ふ梅子の事

一 梅子の事と云ふ梅子の事

一 梅子の事と云ふ梅子の事

一 梅子の事と云ふ梅子の事

一 梅子の事と云ふ梅子の事

ワタノ紙ハカヘテウツ入ニサバナカリニ
テオホクシウ眠ノ紙ヲ平ニハヤスヘシキ事
三番メ十トノ外ノ紙二十カニテモふ散ル眠紙
計ニテ八十クハ五番ニ二番メ十トノミツ
六十カ事也

一、ろくろをうんとすむ船一舟十ト二十カに
りて事一室なり

一、大坂新十ト摩滅、西ノミテ留一、声十ト斬之
ハ後、市ノ里ニテサカシメ、モノ也

一、今、我々、時、小鼓、の、満、ち、う、る、と、
可、重、く、も、な、る、可、物、也、
一、小鼓、の、た、け、と、う、ら、わ、く、

一、のれ、新なる者なり。二、後の物にて、
とて、三、後、常て、ある物也。
わ、より、あり、家、とて、見る、や、八、是、
と、とん、又、都、の、も、は、る、物、也。

一 孫子より著して、その師の言を記して、
 又や、其の師の言を記して、其の師の言を記して、

一 何れもこれを知りておのづから
一 何れもこれを知りておのづから

一 何れもこれを知りておのづから
一 何れもこれを知りておのづから

一 何れもこれを知りておのづから
一 何れもこれを知りておのづから

一 何れもこれを知りておのづから
一 何れもこれを知りておのづから

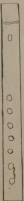
一 何れもこれを知りておのづから
一 何れもこれを知りておのづから

一 何れもこれを知りておのづから
一 何れもこれを知りておのづから

一 何れもこれを知りておのづから
一 何れもこれを知りておのづから

一 何れもこれを知りておのづから
一 何れもこれを知りておのづから

一 何れもこれを知りておのづから
一 何れもこれを知りておのづから



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十



十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十

右一冊
 左一冊
 中一冊
 下二冊
 上二冊
 中二冊
 下三冊
 上三冊
 中三冊
 下四冊
 上四冊
 中四冊
 下五冊
 上五冊
 中五冊
 下六冊
 上六冊
 中六冊
 下七冊
 上七冊
 中七冊
 下八冊
 上八冊
 中八冊
 下九冊
 上九冊
 中九冊
 下十冊
 上十冊
 中十冊

山崎龍平將書人

宮田沙登

天保十年二月日

親賢

嶋

大野三島友

山崎龍平

天保十年九月九日書寫直授畢

山崎龍平





大聖分笛鼓傳書

細川

十部傳書

四